

# 第7回

みらい

# 未来担い、手養成塾

## 活動報告書



とき 平成26年11月19日(水)18:30～  
ところ 倉吉市役所 大会議室

### <第7回内容>

第7回となる今回は、第一部の総仕上げとして**政策発表会**を開催しました。当日は市長、市担当課をはじめ一般市民の方も傍聴に訪れ、活発な意見交換が行われました。

### <発表概要>

#### 【Aグループ】「子ども就学ファミリーの定住&IU(移住)」

- 本市の人口流出を食い止め、更には移住定住につなげるため、就学後の子どもを持つ世帯を対象とした支援策を提案。
- 市民意識調査では、「子育てと仕事の両立ができる環境が整っていない」との回答が多数あり、更には就学児童の保護者からは、子どもたちの放課後の有効な使い方について声が上がっている。



↓  
そこで...

#### ■ くらよし放課後アクション

- 就学児童を持つ世帯をターゲットに、放課後の学童保育や学習支援を充実させる。
- 現状の制度よりも対象年齢を拡大し、預かり時間を延長。
- 地域の人等を積極的に活用し、地域交流を促進させ将来地域を担う子どもを育成。



#### ■ 児童手当の拡充

- 子育てに係る経済的な不安を緩和。

↓  
2つを併せることにより...

子育ての不安を低減させ、  
移住定住へつなげる！

### <<塾長講評>>

- 施策の対象を明確化した点はとても良い。
- 現状データの推計等、具体的な数字があると説得力がもっと増す。
- 今後施策を詰めていく場合は、ニーズの把握と手段の妥当性、費用対効果の検討が必要。また、実際に子育て世帯と意見交換をし、生の声を聴くことも重要。



## 【Bグループ】 「倉吉らしさ(改)～新しい官民協働スタイルの提案～」

- 行政と市民(民間)がより一致団結する体制をつくるため、新たな視点に立った補助金制度の設立とワンストップ窓口の設置を提案。
- 地域活性化のため、「倉吉らしさ」を活かした取り組みを官民協働で進めることが必要。
- 現在も地域活動等を応援する補助金制度は存在するものの、補助金制度全般に言えることとして申請手続きの煩雑さや申請団体の固定化等の問題点がある。

↓  
そこで...

### ■ 支援体制(専任担当制)の確立

- 「倉吉市の活性化」に繋がる事業案を広く公募し、市民からの提案に対して、企画立案に係る相談から申請手続きの補助まで幅広くサポートする専任担当を設置。
- 事業化の際には、専任担当も一緒に参画し行政だからこそできる支援を実施。



専任担当は、採択事業に参画して、市民と一緒に汗を流す。

この養成塾の様に官民協働で、倉吉の活性化を図る。



### ■ 新・官民協働スタイルの補助金

- 選考は書面だけでなくプレゼン審査を実施するとともに、広く外部から意見を募集する。
- 専任担当をとおして経過報告を行ってもらい、事業報告の際にも広く外部から意見を募集し効果の検証を行う。

↓  
2つを併せることにより...

官民がともに汗を流し、  
倉吉の活性化を図る！

### ＜市長全体講評＞

- 現状分析の際イメージに捕らわれている印象。実態をきちんと分析し、原因を探ることが重要。
- 残りの期間で斬新なアイデアを盛り込み、思い切った提案をしてほしい。

### ＜政策発表会を終えて＞

7月に開始した本事業ですが、早くも折り返し地点となる政策発表会となりました。

塾生の皆さんは非常に限られた作業時間だったこともあり、まだまだやり足りない雰囲気はありましたが、本塾の最大の目的である『政策提案をとおしての市民と市職員とのネットワークづくり』という点では、右の打ち上げの様子を見てもわかるように着実に成果が出つつあると感じています。皆さん第一部お疲れ様でした！（事務局）

### ＜塾長講評＞

- 行政の補助金は使いにくいという声は確かにあるため、エッジの効いた面白い提言。
- 市以外にも県等の既存制度と比較し、違いを明確化させることが必要。
- プレゼンを課すことで、逆に今まで以上にハードルが上がってしまう一面がある。
- 実際に行政側と意見交換を行い、練り上げていくと良い。

